

## テント一週一文（ゑ） — 紹介：「三陸の海を放射能から守る岩手の会」通信『天恵の海』第187号

(承前)

### 車道からの排ガス防御手段

九電本店前テントの車道側の面と車道の間には2メートルくらいのスペースがあります。歩道を管理する福岡市は、そこに、直径90センチくらいで高さも90センチくらいの移動可能な丸いコンクリート製の花壇を約2メートル間隔で置いています。街の緑化イメージを守るためでしょう。そして、その花壇には小さな灌木が植えられていて、その木は花壇内に根を張って、かなりシッカリと立っています。

テントには、大き目の脱原発モットーを書いた横断幕を車道側に張っていますが、その木を利用して張ることは出来ません。禁じられているのです。

テントでは、中心部に旗を立てる丸い穴が空いている、上部半分ほどが欠けている円錐型のコンクリートブロックを車道沿いに約1メートル間隔に置いています。そこに「原発いらない」と染め抜いた黄色い旗を立てているのですが、その旗用のポールに紐を下げ、その紐と脱原発モットーを書いた横断幕に付けた紐を結んで横断幕を固定し、通り過ぎる車に見えるようにしています。固定するとは言っても、旗もポールも風に揺れます。しかも紐で結わえているだけですから、はなはだ不安定な固定ではありませんし、たわんでもいます。朝張って、夕方取り込む横断幕ですから、壁にビスで留めたようにはいきません。

ある朝のことです。テントを立てる時にテントの九電側の面の前に賛同者名簿を置く机を準備して、その上に置く書類を揃えていた女性（以下「机」さん）が、外に出て車道側の旗の紐を調べます。テントの中にいた、自転車でテントの手伝いに来ていた男性（以下「自」さん）も、そこに出て来て「張ります？」と尋ねます。

実は、机さんはのどが弱いのです。車道からテントに吹き付けてくる排ガスの影響を誰よりも敏感に感じるのです。冬場はテントをビニールシートで囲みます。寒さ対策と車道からの排ガス防止のためです。でも、春も進み、日差しは暖かくなり、風もさわやかになると、雨でも降らない限り、テントの周りにビニールは張りません。排ガスを防ぐのはそれほど広くも長くもない横断幕一枚になります。この日も車道からの排ガスを遮るのは横断幕一枚だけで、のどが弱い机さんには少し辛かったのです。

机さんは排ガスがテントに押し寄せてこないようにシートを張る算段をし、自さんはそれを手伝えるためにテントから出て来たというわけです。

机さんは、そこに置いてある何枚かのビニールシートを手にとって、「どれを張ったらいいのですかね～」と半分は自分に、半分は自さんに聞きます。自さんは一番大きなカバーを取り上げて、「これはどうですか」と答えます。

机：この大きいのはどこまで張れます？

自：そこの自転車置き場の端から一番向こうの旗までは張れますよ。

机：少しは排ガスを防げますよね。

自：「少し」じゃなく、完全に防げます。

机：オーバーですね。「福島はコントロールされている」と同じくらいに。

自：私の「完全に」はオーバーでした。「コントロールされているフクシマ」はウソです。ウソとオーバーは全く別物です。

机：そうでした。じゃ、このカバーを張りましょう。

自：これを張れば少しは来なくなると思いますよ。

机：ア、あなたも「少し」って思っているんでしょう。

自：エへへ、ですね。そちらを持ってください、このシートを広げますから。

そこへ、新たな人がやって来ました。若い男の人（以下「若」さん）が「入口」と書いた透明カバーを押してテントに入たのです。机さんは「ア、こんにちは」と挨拶をします。自さんには「後でしましょうか」と言って、広げかけたカバーを元のよう  
に畳んでしまいます。この日は少し風があったので、風もなくどんよりと曇った日よりは排ガスはしのぎ易くはあるのですが、彼女は、自分のことはさておいて、テント  
に来てくれた若い方のお話を優先して聞かなければと思ったようです。

### 『天恵の海』 紹介

机：いらっしゃい。お掛けください。

若：村長さんは？

自：先ほどまでいらっしゃったのですが、今度の集会のことで打ち合わせに出かけ  
られました。

若：お忙しいそうですね。でも留守番の人がいていいですよ。

机：難しいことが起こらなければいいんですけどね。

若：テントでは難しいことは起こらないでしょう。

自：時々起こりますよ。

机：この前はね、そこに賛同者名を書くノートがあるでしょう、そこに名前を書い  
ていただいた人に、テントとは関係のないことを聞かれましてね。私は原発のことを  
聞かれても碌に答えることは出来ないのに、その人には沖縄のことを聞かれたんです  
よ。

若：基地のことですか？

机：基地のこともあるんですが、アメリカ軍のことですね。今、どんどん増強され  
ていて、平時では考えられない装備が持ち込まれたりしているんですってね。それ  
について。

若：日本のマスコミへの批判なんですかね～。

机：はっきりとはおっしゃらなかったんですが、そうだったのかもしれないね。

若：マスコミは基地については少し報じますが、アメリカ軍については腰が引けて  
いますからね。

自：そうですか？

若さんは、「例えばですね」と言いながら、バッグから資料を取り出して自さんと  
机さんに渡します。

机：『天恵の海』ですか。前にも紹介していましたね。

☆参照 一週一文（ふ） [http://npg.boo.jp/kieyuku/week\\_repo/180219kuriyama.pdf](http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180219kuriyama.pdf)

一週一文（と） [http://npg.boo.jp/kieyuku/week\\_repo/170703kuriyama.pdf](http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/170703kuriyama.pdf)

自：思い出しました。三陸の市民運動の会報でしょう。

若さんは、机さんに渡した資料をチラッと見て、「そうなんです、いま見ていただいているのは 187 号です。これとは別にですね、ぜひ読んでいただきたいのは……」と、自さんに渡した資料を指差して「こちらなんですよ」と言います。

自：これは会報じゃないんですね。

若：これはこの会のメンバーからいただいたメールなんです。切実な訴えなんです。読んでいただきたいと思って私が勝手に編集してみたんです。

自：勝手に編集してもいいの？

若：悪いですよ。でも許してもらおうかと思っているんですよ。

机：少し甘いんじゃないですか？ 著作権もあるわけですから。

若：それはそれとしておいてですね……

自：フムフム。

若：日本の核施設にとって外国から飛んでくるミサイルも脅威なのですが、アメリカ軍の我が物顔の振る舞いの方がもっと危険なんです。どうしてそれをマスコミは取り上げないのかと怒っているのですよ、『天恵の海』の編集メンバーは。

自：そう言われてみると、米軍のオスプレイ配置も各地に広がっているし、日本国中に原発などの核施設はあるしで危険性は幾何級数的に増大しているんですね。

机：ア～、考えているとノドよりも頭が痛くなってきたわ。

自：『天恵の海』と怒りのメールをゆっくり読む前に排ガス防御用ルシートを張りませんか？

と、自さんと机さんは外に出ます。若さんは 4 月 19 日の「テント 7 周年記念九電抗議集会」のチラシを見えています。この日も静かな時間の流れているテントです。

(文責 栗山次郎)

2018 年 5 月 7 日公開

-----  
参照： 「三陸の海を放射能から守る岩手の会」通信『天恵の海』 第 187 号〔2018 年 3 月 18 日〕

[http://npg.boj.jp/kieyuku/week\\_repo/tenkei187.pdf](http://npg.boj.jp/kieyuku/week_repo/tenkei187.pdf)

『天恵の海』編集メンバーからのメール

[http://npg.boj.jp/kieyuku/week\\_repo/tenkei187\\_mail.pdf](http://npg.boj.jp/kieyuku/week_repo/tenkei187_mail.pdf)